課題研究2014

身近に！地域に！

三年生が取り組んだ課題研究はあなたのすぐ身近で役立っていて、また、校内だけではなく地域にまで貢献をしています。広がる、生徒活動の可能性！

ミニ出島復元隊 其の二

江戸時代、日本と西欧を結ぶ唯一の窓口であった出島。当時の出島全景を十五分の一の大きさで再現したのが、出島内部にある、市が製作した模型「ミニ出島」です。しかし近年老朽化が進み、模型の改修が決定。本校建築科にその修復作業が依頼されています。昨年に引き続き課題研究の一環として、A3の六人の生徒が取り組みました。修復作業は今年度で二回目。全部で六棟の模型修復が無事完了し、二月二十八日の現地設置ではテレビや新聞各社の取材も行われました。

▼一年かけた模型の完成、その設置を終えて…生徒の今の気持ちは？

「『最高』の一言」（明石）

「ここまで本当に長かったけど、納得のいく出来になった」（川崎）「完成してよかったよ」（馬場）

「長かった。そして辛かった」（山下）「あとまで残るものなので、完成して嬉しい」（東）「やっと終わりだ…」（半田）「こういうやって形に残って嬉しい」（山口）「先生に迷惑もかけたが、その分頑張った」（大安）「塗装が特にきつかったが、やってよかった」（村山）

▼先生、今年のミニ出島の出来はどうですか。

「八十点…あとの二十点は来年への伸びしろにとっておきます」（田村先生）「悪い。屋根に隙間がある」（小川先生）

―報道各社から感心の声が上がる中、担当の先生からは厳しい評価も。

この取り組みはこれからも続けられる予定（八年構想）。田村先生は最後に生徒に向けて「自分たちの頑張りが将来に生かされるよ。お疲れさま」と労いの言葉を送りました。

長崎の歴史を、現代の高校生が受け継ぎ模型という形にして残す。長工の技術と「地域」のつながりを強く感じました。

▶まるで本物。

▼「終わりなきぃ～出島ぁ～」by明石
続く作業は後輩の手に託します。

声 voice

修復したミニ出島を現地で見た方々にお話を聞きました。

ボロボロだったのが、見事にキレイになった!!（出島スタッフの方）

高校生なのに感心します（観光客）

素晴らしい出来だと思う。（出島復元整備室 馬見塚 純治さん）

▲技の見せ所や！

▼ホッと落ち着くしゃべり場…

「憩いの場」を造る

自動販売機の前に置かれている木製のベンチとテーブル。これは課題研究で13の出口瑠々華さんと小川内美波さんが製作した作品です。

出口さんと小川内さんにお話を聞くと「昨年度の先輩の作品を参考にテーブルやイスの裏から釘を打って、くぎの錆防止をしました」と工夫を凝らして製作に取り組んだようです。担当の杉原先生は「毎年の課題研究で一つずつ作って、お弁当を食べたりできる新しい語らいの場になったらいいと思う」と話されていました。

お昼休みにはこのベンチで談笑している生徒をよく見かけます。校内でも課題研究の成果が他の生徒の役に立っているようですね。

▼安全な作業出来てる？

▼笑顔で語る
杉原先生

シリーズ 溶接1!2!3!

新たな挑戦③

新たに挑んでいる専門級の下は。只今、悪戦苦闘中。

世の中には器用な人とそうでない人がいます。失敗した鉄板を抱えて落ち込んだ所で何のプラスにもなりません。周りを見渡せば先生方や同じ溶接をする仲間が。自分の殻に閉じこもって悩むより行動！いろんな人から話を聞き猛練習。試行錯誤の末やっと見ることのできるものができました。下はなかなかに手強し…。遅かれ速かれ、たどり着く所は同じ。楽しむ余裕を持ちマイペースでいきます。本番は八月。それまでに完成させます。（甲斐田）

日々の進化 インテリア工科展

二月二十日から二十三日まで、毎年恒例のインテリア科展が開催されました。今年の会場は長崎歴史文化博物館。建築の図面や家具など、I科の生徒がこの一年間で製作した作品が展示されました。

I科の杉原先生と、インテリア科展にいらした一般の方にインタビューを行いました。

【杉原先生】

Q お客さんの反応はどうですか。

―興味をもたれて、図面や材料についての質問をされた。

Q 昨年と違うところは。

―人通りが多くなって、お客さんが多い。歴史文化博物館に来たついでにインテリア科展にも来てくれている人がいた。

▼魚釣り、しましょ

◀お手製ギター！

▼手の込んだ
インテリアの数々

【お客さん】

Q 見に来た理由は。

―娘が二人ともインテリア科なので、五年連続で来ています。

Q 展示を見てどうですか。

―木工作品が家具だったり、ギターだったりと、バラエティーにとんでいて面白い。毎年、図面が上手くなっている。

Q 印象に残った作品。

―ロープを編んだ椅子。ぐらぐらする椅子も良かった。

どの作品も、高校生が作製したとは思えないほど完成度が高い作品ばかりでした。インテリア科展に訪れたことがない人は、是非一度足を運んでみてください。

H25修学旅行 滑って？全て！楽しんで!!

二月十日～十三日に行われた修学旅行。そのようすを実際に旅行に行った新聞部員がリポートします。

一日目は長崎を出発し長野の菅平高原へ。飛行機で一時間半、バスで四時間半という長い長い移動です。精神的に疲れさせられるのかと思いきや、羽田空港から長野へと向かうバスの中で私たちの心を揺さぶったのは、普段はテレビの前でしか目にしない東京の街並み。そして長野へと近づくにつれて多くなる雪景色。これから始まるスキー研修への期待でいっぱいでした。

二日目と三日目はスキー研修。転び方や歩き方などの基礎練習から始まり、徐々に難易度を上げていきます。最初は緩い斜面ですら滑ることが出来ませんでしたが、三日目の後半の方ではたくさんのゲレンデを制覇！スキー研修を終えると、ゲレンデとの別れを惜しむ間もなく埼玉のホテルへと移動。

四日目はスカイツリーとお台場散策。スカイツリーで販売されていたスカイソフト。東京を見下ろしながら食べるスカイソフトの味は格別でした。

最初から最後まで笑いが絶えなかった修学旅行。朝日に輝く雪景色は心に残るかけがえのない思い出になりました。

▼ホテル入口には大きく
「歓迎」の文字が！

◀さぁ滑るぞぉ～

編集後記

春が近づき、暖かくなってきましたね。花粉症ぎみの人には辛い季節ですが、新年度に向けて新聞部も気張っていきます。来年こそはもっと余裕をもった新聞作りをしよう…そんな！必要なのは休養！みんなしっかり休もうね！

うるうる！ てふ工生!!!

～ナミダ、拭いて～

何故、手